小学生・中学生における鼻アレルギーの性差

出典　性差医学(1343-4489)5号 Page86-88(1999.02)
(http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003292913)

著者　三邉武幸　他

調査地域　北海道白老町

調査時期　1989～1991年

調査対象　小学生、中学生

依頼数　2677人（男子1300人、女子1377人）

診断方法
・アンケート項目の中で鼻アレルギーの三徴（くしゃみ、鼻汁、鼻閉）のうち、”いつも””時々””まれに””なし”のうち”いつも”あるいは”時々”と回答しているものを症状有りとし、二つ以上の症状を有した者
・鼻鏡検査所見から、鼻アレルギー特有の鼻内所見のあった者
・スクラッチテストにて、ハウスダスト（HD)、ダニ、スギの3種のアレルゲンのうち1種類以上に陽性反応を示した者
＊鼻アレルギーと診断された場合に有病率とし、鼻アレルギーと診断された症例数／スクラッチテスト陽性例数を有症率とした

有症率
鼻アレルギー有病率：4.5%
鼻アレルギー有症率：12.6%

男女別有症率

	男	女
鼻アレルギー有病率：	5.3%	3.8%
鼻アレルギー有症率：	12.3%	13.0%

スクラッチテスト陽性率　全体：35.8%
男子：43.0%
女子：29.0%
＊ほとんどがハウスダストとダニに対する皮膚反応であった

調査概要
小中学生を対象とした鼻アレルギーと性差についての論文。
スクラッチテスト陽性率及び鼻アレルギー有病率共に男子が有意に高いが、有症率（鼻アレルギー診断症例数／スクラッチテスト陽性例数）に差はなかった。